

令和7年度第3回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和8年3月26日（木）午後2時00分～午後2時55分

開催場所：福知山市立図書館中央館 2階 研修室

出席委員：神谷委員、仲野委員、中井委員、芦田委員、西村委員、塩見建委員
高見委員、上垣委員、

欠席委員：河北委員、小林委員、善積委員、塩見育委員

事務局：足立館長、四方次長、塩見次長、中嶋係長

傍聴者：なし

議題：（1）令和7年度図書館事業報告について

（2）第4次福知山市子どもの読書活動推進計画について

<委員長あいさつ>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和7年度図書館事業報告について

～資料「図書館事業報告（令和7年4月～令和8年3月）」に基づき、プロジェクターで図書館ホームページの記事をスクリーンに映しながら事務局から概要説明～

内容：令和7年度の図書館の事業について

委員

たくさんの方の事業報告ありがとうございました。概要報告なので、次回の協議会あたりで確定版事業報告をされるのだと思うのですが、どういう所が課題で、どういうところをどうして改善して行きたいということをまとめられるのでしょうか。

事務局

最終の報告は、年報となりますので、8月下旬頃に完成し、11月なり12月に年報の報告をさせていただくことになります。人員体制の問題もありますが、継続は力なりといえますので、これまでの事業を継続させながら、様々なことに取り組んでいきたいと考えております。

事務局

今の課題とか方向性については、次で説明させていただきますが、お手元の資料、「第4次子どもの読書活動推進計画」が策定できましたので、こちらの方に児童生徒そして保護者にアンケート

ートをさせていただき、その結果も踏まえた今の課題であるとかこれまでの成果も入れさせていただき、令和8年度から12年度の方向性も示させていただいているところです。

委員

先週だったと思うのですが、綾部市の図書館で犬に読み聞かせという事業を実施されており、5・6匹の犬が来ていてそれぞれに子どもたちが読み聞かせをしていました。海外での話ではなく、隣町の話なのにこんなことをしていることが面白く感心させられました。でも、私は三和分館によく行くのですが、三和分館が実施しているわくわくスタディーも負けていないと思っています。自然科学協力員の方に講師になってもらうなど、毎回、老若男女みんなが楽しめる内容で、1回で終わらせるのはもったいないと思いましたし、他の分館でも実施したらいいのではないかと思います。

委員

むかし、小学生おはなし会というものが中央館にあったのですが、今は無くなっています。その代わりに今は工作とかの小学生向け事業を実施されているのだと思うのですが、悲しいことに今の小学生は単におはなし会というのでは喜ばないのです。でもわくわくスタディーのような体験できる事業は好評です。それによって図書館に来たいなと思ってもらえることは、いいことだと思います。新しい子どもの読書活動推進計画の8ページにある市立図書館にいきますかという問いに対して中学生では、67パーセントもの子があまり行かないと回答している悲しい現状に対して、体験も取り入れた事業に取り組んでももらえたらと思います。

委員

わくわくスタディーは、子どもだけでなく、連れていく大人が楽しみにしておられます。自分が行きたいから子どもを連れていく。そこが重要なのではないかと、その中で、ちゃんと本を絡めておくことが図書館としては必要だと思っています。

1 第4次福知山市子どもの読書活動推進計画について

～資料「第4次子どもの読書活動推進計画」に基づき、事務局から説明

事務局

本年度第3次計画が最終年度であることから、計画の見直しを行い、令和8年度から新たに子どもの読書活動を推進するための基本方針となる第4次福知山市子どもの読書活動推進計画を策定しました。策定委員には、図書館協議会からは上垣委員にお世話になりました。2月の教育委員会において承認され計画が確定しました。

12月の協議会においては、計画案パブリックコメントを募集することを報告させていただきましたが、資料として本日パブリックコメントの結果についても配布させていただいております。12月25日から1月25日までの間、募集をさせていただき、2人の方から複数のご意見をい

いただきました。

1人目の方は地域のボランティアのことを言われており、図書館の読書ボランティアに限らずに、地域には様々な特技を持ちボランティアをされている方が多くおられ、その活動の輪がさらに広がるよう図書館としても連携を図っていきたいと思います。計画の方にもこちらの意見を反映させ「地域のボランティアと連携した取り組みの充実を図ります。」という文言を追加しております。

もう1人の方には、電子図書館に関するご意見をいただいております、紙の本と電子書籍はそれぞれ異なる利点があり、読書の目的に応じて活用されるよう推進していきたいと考えております。前回の協議会でも電子図書館に関するご意見を頂いており、計画にも「紙の本と電子図書館のそれぞれの利点を活かし目的に応じて活用します。」という文言に修正しております。

前回の計画にはなかったこのデジタル化ということが今回大きな違いとなっておりますし、そうした時代の変化に応じた取り組みを進めていきたいと考えています。それらの意見を反映させ、こちらの計画は策定にいたしました。

令和8年度に向けて、より子どもたちの読書活動が充実したものになるよう図書館としても、子どもたちが楽しんで本に接することができるよう取り組みを進め、地域や学校や保育園など関係機関のニーズを把握しながら、連携を強化した取り組みをしていきたいと思っております。また、来年度、計画に基づく取り組みについても具体的に進めて行きたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

委員

電子図書館の利用状況なのですが、小学生は使いたがっているというのは、小学生たちにタブレットを配置されたことが影響しているのかということと、それが全国で利用率が一位になっているということで間違いなんでしょうか。

事務局

タブレットはギガスクール構想により、福知山市特有ではなく、全国的に行き渡っていると思っています。全国一位の因果関係は、見ていたり、学校の先生のお話を聞いていますと、低学年はそれまで、使う機会のなかったツールを使えるのがうれしいというのはあると思うのですが、これが要因ですと言い切れるようなデータは持っていません。

委員

高校生くらいになるほど電子図書館の方がいいという割合が低くなっているのは、ギガスクールの導入のタイミングもありそうですか。

事務局

関係なくはないと思います。

委員

現場で見ている立場としては、すごく関係していると思っています。

事務局

紙の本と電子の本はそれぞれの利点があると思っています。電子であると読み上げ機能が付いたり、こっそり読みたい内容の本も子ども達にもあると思います。悩みのこととか人間関係のこととかの本です。

委員

例えばどのような電子書籍ですか。

事務局

性のこととか、いじめのこととか、友達づくりの本とかカウンターに持っていきにくいものが、電子書籍で読まれています。学校では教えてくれないシリーズも人気です。

委員

5・6年生の子たちなのでしょうか。

事務局

学年ごとの統計はとれないので、こちらとしても分らない状態です。

委員

検討委員会の委員として出席しておりましたので、一言発言をさせていただきます。今回の推進計画の特徴としては、これまでの推進計画にはなかった小学生や子どもたちへのアンケート結果が沢山入っている点で、これまでは、保護者や保育園・幼稚園の先生に対するものだったので、リアルな意見が取り入れられています。これをまとめていただくには、事務局も大変ご苦労されました。

これをこれからどう使っていくのかは、やはり読書推進にたずさわる大人の役割かなと思います。デジタルと紙の本とのことですが、私の個人の肌感覚では今が過渡期なのだと思います。二つがどうなるのかというのを、子どもたちの読書傾向というのを大人が注意深く見て、そのバランスをどうとっていくのかということを考えていかなければならない過渡期なのだと思います。本当に今、世界の情勢とか世の中の情勢であるとかを見ているとびっくりするほど早く色々なことが変わってっておりますので、これが全て、これが決まったことというのではなく、大人が注意深く見たり、考えたりして心をくだいて行かなければならない時期なのだと思います。

<閉会挨拶>